

マエストロ - “ 女流指揮者の世界 ”

プログラム

近年、女流指揮者の活躍が目覚ましく、クラシック音楽界に新しい風を吹き込んでいます。女流指揮者の先駆者的役割を果たしたのが、1937年生まれ、スイス出身のシルヴィア・カドゥフとされています。1966年のミトロプーロス国際指揮者コンクールで優勝、カラヤン、バーンスタインに認められ、初めてベルリン・フィルを指揮した女性指揮者となるなど、女流指揮者への道を切り開いたパイオニアですが、女性軽視の時代の波に押し流され、活動の場を閉ざされてしまうという不運に会いました。今日は第一線で活躍している5人の女流指揮者をご紹介します。

ヴァン・ウィリアムズの「揚げひばり」はイギリスの作家ジョージ・メレディスによる同名の詩に感化され1920年に完成されました。美しい民謡風の旋律と牧歌的な情景が浮かぶ魅力的な佳曲です。バーンスタインの「キャンディード」は、フランスの哲学者ヴォルテールの『キャンディード、あるいは楽天主義説』を原作としたミュージカルで、現在ではほとんど上演されませんが、序曲は単独でしばしば演奏される名曲です。ロドリゴの「アランフェス協奏曲」は作曲者の代表作というばかりでなく、ギター協奏曲の最高傑作として知られています。アランフェスはスペイン、マドリド近郊にある地名でスペイン王室の宮殿と庭園があり、スペイン内戦で被害を受けた事に対する平和への祈りを込めて作曲されたと言われています。第2楽章はジャズやポピュラーにも編曲されて親しまれている名旋律です。アルゼンチンの作曲家、ヒナステラの「エスタンシア」は大規模農園で働く人々を描いた民族色豊かなバレエ音楽で、作曲者の代表作となっています。お馴染みの名曲と合わせてごゆっくりお楽しみ下さい。

ラルフ・ヴォーン＝ウィリアムズ (1872～ 1958):
揚げひばり (ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス)

レナード・バーンスタイン (1918～ 1990):

“ キャンディード ” 序曲

ナイジェル・ケネディ (Vn)

マリン・オールソップ指揮BBC交響楽団

(2013.9.7 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)

ピョートル・チャイコフスキー (1840～ 1893):

交響曲第4番へ短調 op.36～第4楽章

ミルガ・グラジニーテ・ティーラ指揮バーミンガム市交響楽団

(2016.8.27 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)

ヨハネス・ブラームス (1833～ 1897):

交響曲第1番八短調～第4楽章

アヌ・タリ指揮ノルディック交響楽団

(2015.12.4 エストニア・コンサートホールでのLive)

*** 休憩 ***

アントン・ブルックナー (1824～ 1896):

交響曲第7番ホ長調～第4楽章

シモーネ・ヤング指揮シドニー交響楽団

(2010.8.5 シドニー・オペラハウス・コンサートホールでのLive)

ジョアキーノ・ロッシーニ (1792～ 1868):

歌劇 “ ウィリアム・テル ” 序曲

シモーネ・ヤング指揮NHK交響楽団

(2003.10.5 NHKホールでのLive)

ホアキン・ロドリゴ (1902～ 1999):

アランフェス協奏曲～第2楽章、第3楽章

アルベルト・ヒナステラ (1916～ 1983):

バレエ組曲 “ エスタンシア(農場) ” ～ 1 農園で働く人々 2 小麦の踊り 4 終幕の踊り
(3 牧場の牛追い)

ミロシュ (G)

アロンドラ・デ・ラ・パーラ指揮スイス・ロマン管弦楽団

(2017.1.9 ジュネーヴ、ピクトリアホールでのLive)